

### ご挨拶

皆様、日頃から大変お世話になり、誠に有難うございます。公明党は9月30日の第6回党全国大会で、太田昭宏氏が新代表に選出され「新しい公明党」が勇躍スタートいたしました。「闘う人間主義」「生活現場主義」を掲げ、明年の参院選・統一選の完全勝利をめざして、全力を尽くして参ります。さて、このほど東京都議会・第三回定例会が終了いたしました。私は今定例会で、党を代表して一般質問に立たせていただきました。

東京オリンピックをめざした先端技術の活用、水道事業改革や震災対策の課題、そして、新宿駅の自由通路の整備、サブナードの延伸など具体的な提案を行い、実績を残すことが出来ました。皆様の応援の賜物と心より感謝しております。今後とも首都東京、そして新宿の発展のために、誠心誠意全力で取り組んで参ります。皆様の一層のご支援・ご指導を心よりお願い申し上げます。



都議会議員 吉倉 正美

### 都議会本会議一般質問(9月27日)

## 東京オリンピック招致に ユビキタスの活用を

日本のユビキタス技術は、いつでもどこでも誰にでも、音声・映像・文字など、多様な形で情報提供が可能で、次世代の世界水準のITと期待されています。

こうしたユビキタス技術による東京のインフラ整備は、ユニバーサルデザインのまちづくりや観光、商業振興のツールとして、オリンピックの終了後も、大いに活用できることを訴え、先端技術の活用によるオリンピック招致戦略について、知事の所見を求めました。知事は「全世界の注目を集めるオリンピックにおいて、先端技術を活用することは、日本の技術力の飛躍的な進歩に資するとともに、その成果を世界全体に波及させる効果もある」として「現在、オリンピックにおける先端技術の積極的な活用方策について、専門家等の意見も聞き、検討している」と答弁しました。



## 多言語での 情報サービスの実用化を

オリンピックに際しては、言葉のバリアフリーを図るべきと主張しました。国土交通省が行っている外国人旅行者への「ユビキタス観光ガイド」の実証実験の結果を踏まえ、今後は、携帯電話等を用いた多言語自動翻訳システムの開発が求められています。都は、国の開発状況をもとに、東京オリンピックでは、多言語での情報提供サービスをぜひ実用化すべきと提案しました。これに対し、都は「多言語自動翻訳システムは、大会期間中に東京を訪れる大勢の外国人に対し、きめ細かな情報提供を行う上で、有効な手段であり、今後とも実証実験の推移等を見守りつつ検討してまいりたい」と述べました。

### 首都直下型地震発生に備え

## 帰宅支援拠点のマニュアル化を



震災発生時、徒歩による帰宅者について、都はこれまで都立学校、ガソリンスタンド、コンビニを帰宅支援ステーションとして指定してきましたが、現実的な対応がなされておりません。帰宅ステーションとしての実質的な機能を果たすためには、マニュアルを策定し、それに

基づいた訓練が不可欠である。また、きめ細かな災害情報・交通情報を提供する体制を早急に構築するべきであると、都の取り組みをただしました。これに対し、都は「帰宅支援ステーションとしての役割が十分でない施設もあった」ことを認め、「今後、徒歩帰宅者への支援や情報提供の方法などをルール化した運営マニュアルに基づいた訓練を実施することにより、帰宅支援ステーションとしての実効性を高めていく」と積極的に答弁しました。

## 水道行政改革で、責任体制の 確保を(公共性の確保も)

水道事業の改革に当たって最も重要なことは、都民の命を守る責任体制の構築であり、効率性だけを優先して、都民の安全を犠牲にしてはならないと強く主張しました。強固な責任体制を築くためには、水道局の適切な指導・監督が不可欠であり、都民の誰もが納得できるようなスキームを早急に提示すべきと訴えました。これに対し都は、「経営の効率化を図るため、さまざまな企業努力に努めてきたが、本年7月に公表された『行財政改革実行プログラム』に沿って一層の効率化に向けて監理団体を活用した新しい事業運営体制を構築してまいります」と答弁。さらに「監理団体については、同団体が策定する中期経営計画の進捗管理や総合的な評価に加えて、会計参与制度について導入するよう指導してまいります」と今後の方向を明らかにしました。



## 新宿駅周辺の都市再生を!

——北側 前国交大臣が視察

北側前国交大臣は「新宿駅周辺の都市再生」をめざし、8月21日、新宿駅東西自由通路の予定地、靖国通り地下歩行者空間等の現況、歌舞伎町のまちづくりなどを約1時間半にわたり視察しました。これには、公明党藤井富雄顧問と私に加え、中山弘子新宿区長、高橋重雄新宿東地区まちづくり研究会会長をはじめ、商店街関係者も同行。



前大臣は、自由通路の整備、サブナードの延伸について地元の説明を熱心に聞き、「国としてもしっかりサポートしてまいりたい」と述べました。

## 小笠原諸島を世界遺産に

——都議会公明視察団 特別保護地区を視察

都議会公明党の「小笠原諸島視察団」の一員として、4月8日、私は東京・小笠原村で、世界自然遺産登録に向けての視察活動を展開しました。この日は父島の南西にある南島にチャーター船で渡島。南島は珊瑚礁の隆起や沈降によって出来た沈水カルト地形



の島で、小笠原を代表する景勝地。アオウミガメ、カツオドリなどの繁殖地として重要なところで、小笠原国立公園の特別保護地になっています。しかし、過度の観光客の立ち入りによって植物が傷められ、海へ土砂が流出するなど、貴重な自然に影響が出ていることなど、同行した都、村の担当者との今後の課題や対応などについて意見交換をしました。

## 自立支援の課題探る——身体障害者の職場を訪問

7月7日、私は公明党の山口なつお参院議員(参院選予定候補=東京選挙区)、高木美智代衆院議員、鰐淵洋子参院議員とともに東京都プリプレス・トッパン株式会社(板橋区)を訪ね、身体障害者の就労現場を視察しました。今回の視察は、就労支援の強化策が盛り込まれて



いる障害者自立支援法が今年4月に施行されたことを受けて行われたもの。同社は「重度障害者多数雇用事務所」として1993年に設立され、現在79人の社員のうち、63人が身体障害者。バリアフリーが随所に施されている職場で、パソコンを操作して印刷物の製作に取り組んでいる様子などを見て回りました。

## 新宿「大久保祭り」で区民の皆様と交流

恒例の第25回「大久保祭り」が10月9日盛大に開催され、音楽隊の創価ルネッサンス・バンガード・ジュニアとともに、大久保通りをパレード。音楽隊が、「21世紀のマーチ」「今日も元気で」等を演奏し、沿道の区民を魅了する中、私は、多くの皆様と友好を深めることができました。



### トピックス

#### 医療費助成を中学3年生まで拡充を!

都議会公明党は、子育て支援として、医療費助成を中学3年生まで対象年齢を拡大すべきと主張しています。都は「軽減について具体的な検討に着手している」と答弁。今後、第4回定例会、予算議会で具体的な形で獲得できるよう全力で取り組みます。

#### 障害者の自立を強力に後押し

障害者自立支援法の10月全面実施にあたり、都議会公明党は障害者の自立をより確実にするための提言を行いました。①授産施設の工賃を倍増すべきと提言。都は「作業工賃の引き上げは重要。工賃アップに向けた支援策を検討する」と答弁。②障害者の自立にとって最重要課題である一般就労を促進するためのネットワークを提言。都は、地域の就労支援機関や養護学校等との連携の強化や、障害者の適正等を勘案し、コーディネートを行い、障害者の一般就労を支援していく方針を示しました。

#### 都営住宅の承継問題について

東京都住宅政策審議会が都営住宅の使用承継の厳格化を答申しました。これに対し、都議会公明党は、本年第二回定例会において、利用機会の公平性を確保する観点から、見直しを行う場合には、居住の安定を図る必要がある「高齢者、障害者、病弱者」については、親から子への承継を認めるべきである。さらに、未成年者に関しては成人まで居住を保障すべきと主張。都は「例外規定の継続を十分に配慮する」と公明党の主張を受け入れました。加えて、今回、国が推奨する入居要件への資産調査導入問題がありましたが、これについても、都は公明代表質問に答え、導入見送りを決定しております。

#### 皆様の声をお寄せ下さい!!~全力で働きます~

東京都議会議員 吉倉 正美

世界一安全と言われた治安が崩壊する。教育力が低下する。企業の不祥事が相次いで起こる。まさに、戦後60年を経て、次々に顕在化する日本社会の制度疲労、これをどう立て直すかが、問われています。政治の最大の責務は、皆様に希望と安心をもたらすことだと思えます。そのために私は皆様の声を直接いただき、都政に反映し、一つ一つ政策として実現させていきたいと決意しております。住宅、子育て、教育、就労、介護など、皆様がお困りのことがございましたら、何でもご相談下さい。皆様の声をお待ちしています。

連絡先 都議会公明党

TEL 03-5320-7250 FAX 03-5388-1787